

日々の授業の充実 複式指導「桶売プラン」

いわき市立桶売小学校

～複式指導～ 基本的な構えと考え方

1. 複式指導のよさを最大限生かす「教師の意識改革」
2. 複式学級だからこそ子どもが育つ「発想の転換」
3. 「マイナス（課題）をプラス（利点）に」の変革

基盤：<この学級の友達・先生なら、この学校のみんななら、自分をしっかり受け止めてくれる>

マイナス（課題）と考えられること	プラス（利点）と考えられること
1 少人数のため、児童は大きな集団での社会的経験が不足しがちである。 大人数の中では、まわりに圧倒され気後れしてしまうおそれがある。	1 一人一人に目が届き、個に応じた指導が確実にできる。一人一人の活動・表現の場も多く設定できる。代表あいさつなど毎回経験できる。集団生活では、異年齢集団活動、地域の方々、川前・小白井小などとの交流活動充実などで社会性等が身に付く。
2 間接指導が入るため、児童は教師から直接指導を受ける時間が少なくなる。	2 間接指導時に自学自習、児童同士の学び合いができる。自分たちで学習を進める態度が身につく。直接指導時には問いたい・学びたい中心を明確にして学び取れる。
3 2個学年編制のため、学級を構成する児童が毎年変わってしまう。	3 児童は毎年、上の学年の立場・下の学年の立場の両方を経験でき、してもらったことを返す心豊かな経験ができる。

学力向上につながる複式指導「ずらし」「わたり」学習基本過程

「ずらし」・・・2個学年の学習過程の各段階を「ずらし」て組み合わせることで、直接指導が必要な学習場面を明確にし、学習指導できるようにしている。

下の学年	教師の動き		上の学年
問題・課題把握	直接指導	間接指導	習熟・振り返り
自力解決	間接指導	直接指導	問題・課題把握
練り上げ・まとめ	直接指導	間接指導	自力解決
習熟・応用	間接指導	直接指導	練り上げ・まとめ

「わたり」・・・2個学年間を直接指導のため交互に「わたり」歩き、児童の学習状況の見取りや評価、再指導等ができるようにしている。

間接指導で力をつける

複式指導のポイントは、教師が直接指導できない「間接指導」時の学習活動の充実にある。（間接指導時に学習の自立化を図る。）

- ①直接指導時に、間接指導時の「追究・話し合う・まとめておくべきこと」等々の学習内容や手順・方法等を明確に示し、自学自習できるようにしておく。
- ②直接指導したことをもとに、子どもの自力解決学習や習熟・応用問題演習等につながるよう、一人一人の学習進度・状況を見取り、間接指導の充実につなげる。
- ③「学習の手引き（ガイド学習）」を活用し、主体的に学習活動に取り組む体験を通して、自ら学自ら考える力（自分たちで学習を進め、自分たちで考えを深める力）を育成する。